

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793100025		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホーム天神1階		
所在地	福島県二本松市杉田町一丁目2-1		
自己評価作成日	平成21年9月30日	評価結果市町村受理日	平成22年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成21年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎月地元のボランティアがホームに来てくださり、それを見学と一緒に近隣の方がホームを訪れて下さるなどの交流がある。また地元の消防団の方が避難訓練に協力して下さる。 ・ケア力向上の為に定期的に自主勉強会を開催したり外部研修を奨励している。 職員全員が入居者様一人ひとりの傾聴に心がけ、ニーズに応じられるよう心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の中でも唯一職員全員が正規職員という恵まれた体制であるため、勤務形態が安定しており、日常の勤務スケジュールを的確に組むことができている。災害訓練は4回目になるが、春は消防署職員の指導の下で研修も兼ねて行い、秋には地元消防団の協力を得て50名の参加を以て行われており、終了後には参加者全員でいも煮会をして交流を深めている。また、訓練の様子が写真入で地元紙に掲載されたことで地域住民の関心と呼んでいる。利用者は数人集まれば歌唱を始め、職員も一緒に和気藹々と明るく過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時やスタッフ会議の時など、日々の心構えとして法人の理念、事業所の理念を常に頭において業務にあたるよう申し合わせている。	理念は外来者の目にも触れるリビングの壁に掲示されている。地域とホームが共に歩むことが明記されており、職員は日常のケアの根底をなすものとして認識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々が毎日おいでくださり、地域の方々と利用者様が共に日舞を觀賞したり、カラオケ大会をしたり、又、避難訓練にも参加していただいている。地域清掃に参加し交流に努めている。	日常的に地域住民の訪問や野菜の差し入れなどがある。毎月行われている日舞のボランティアの後で利用者も一緒にカラオケを楽しむのが恒例となっており、地元の高校生からのボランティアの申し入れについては時節柄新型コロナウイルスの心配があつて遅れているが、12月の行事の中に組み入れて実施する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「天神だより」に認知症への理解と対応についてのポイント等を載せ、広報活動に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活発に意見交換され、出された意見は所長、スタッフ共に真摯に受け止め、問題点があつた時は話し合い。日々サービスの向上に努めている。	会議は定期開催されている。前回の外部評価の結果を受けて災害時の近所からの応援などを具体的に話し合っており、外部委員から提案された警察官立ち寄り所のステッカーが速やかに交付されホームの安全安心につながっている。今年10月からは建物のオーナーが委員に加わっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢福祉課、福祉事業所、国民健康保険課等、関連部署との連携を常に心掛け健康増進課主催の研修には職員全員の参加を目指している。	地域包括支援センターが市の直営であり、担当者が運営推進会議に常に出席しているため双方向の情報交換が行われており、講師の紹介などを得て薬剤師や栄養師による研修をホームの自主学習として実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・居室も玄関も施錠はしていない。 ・外出したいと思われる時には職員も一緒に付いて行くことにしている。 ・畑の仕事が得意な利用者は1日に何回も畑に出て、作業をしている。	職員は身体拘束をしないケアを十分に理解している。玄関の施錠はしておらず、外出願望のある利用者を常に見守り、一緒に出かけて近所の商店で買い物をしたり、後を着いて行ってさりげなく誘導して戻るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり全スタッフに周知されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所長は権利擁護に対する理解を十分に持ち、スタッフに資料を渡したり学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分時間をとり、丁寧に説明を行っている。又、疑問点に関しても納得していただけるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの意見や苦情を受けたら、スタッフ間で話し合い、出された意見は運営に反映している。運営推進会議に家族代表に参加していただき、毎回意見や要望を述べていただいている。それらの意見は運営に反映している。	ユニット毎に意見箱が設置されているが、投函例はない。家族からの意見や要望はその都度個別に対応して内容を記録している。運営推進会議における家族代表も積極的に発言している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議時にスタッフ全員が意見を述べる機会を設けている。又、何かある時はその都度スタッフに意見を聞き、スタッフ提案は運営に反映されている。	職員からの意見や要望はスタッフ会議を通して上申されるが上層部も速やかに対応しており、信頼関係が構築されている。スタッフが全員正社員であるため、勤務体制が確立しており休暇もとやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法や労働安全衛生法に則った労働条件を整えている。又、運営者は事業所でおきている状況変化の把握に努めており、事業所や職員が向上心を持って働けるよう定期的に事業所、職員の評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の確保、向上に向けた育成の必要性を確認しており、職員の立場に応じて新人職員をはじめ所長研修まで行っている。研修終了後は報告書の提出やスタッフ会議、自主勉強会での発表や伝達講習を行い、知識や技術の共有化を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所職員が集まり、学習会を設けている。又、安全や衛生に対する対策の意見交換の場も定期的に設けておりサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人様が不安なく過ごして頂けるように、職員が慎重に寄り添いながら対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所が決まった段階から、ご家族、ご本人様の意向を伺い意向に沿った初期のケアプランの作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所が決まった段階から、ご家族、ご本人様の意向を伺い、安心して入所して頂けるように、意向に沿った初期のケアプランの作成をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理など利用者様の生活歴から教えていただく機会を持っており、洗たく物たたみや料理など一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所行事にご家族に参加していただいたり利用者様の健康問題や悩んでいることについて話し合いをもっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人が訪ねて来やすい雰囲気を常に心がけている。また、昔職場の同僚だった方や趣味のサークルの方々などがおいで下さり常に交流されている。	利用者の大部分がこの地域の出身であり家族や知人の来訪が多い。また、近くの商店などへ出かけることで馴染みの人たちにも会うことができるため、従来からの交流が途切れないようになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が思いやりをもって心配しあったり助け合いの光景がみられ事業所がひとつの家族として成り立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族がお茶飲みにいったり自宅でもれた野菜を事業所に届けてくださったりしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の過去歴や趣味、生活歴をふまえて情報を共有しケアにあたっており、また、利用者様が自分の感情を表現できるような雰囲気づくりに努めている。	利用者各自の情報を把握し、共有して日々のサービスに反映させている。職員全体が視点を同じくして日常の些細な変化を見逃さないように努めているので、入居から短期間で症状が改善した利用者もみられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅訪問を行い生活環境の把握に努めるとともに、人生の歩みか趣味等、本人で家族からお話を伺っている。又、担当ケアマネージャから情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース会議やカンファレンス等を通して把握に努めており毎日のバイタルチェックや排泄、食事摂取状況での体調の把握、通院時には主治医との面談を行い健康維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議やカンファレンスで検討すると共に本人の希望を確認し、ご家族とも協議した介護計画となっている。	個別のモニタリングに基づきケアマネージャを中心として内容を検証している。また、作成する際に家族が参加できない場合には、家族の希望やケース会議の情報をファックスでやりとりして、十分に納得と同意を得、万全を期して利用者の現状に沿う介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活チェック表(食事摂取量、排泄水分バイタル)やケース記録に記入し職員間で申し送りを行い情報の共有を図っている。介護計画の見直しに反映できるように感性をもってケアにあたるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市のおむつ券を利用するなど、行政等の制度を積極的に活用するように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、地域のボランティアの方々に日舞を披露して頂いている。また地域の連絡や、お便りを区長さんが毎月届けて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院時は職員が同行し、普段の様子を主治医に伝え、主治医とのコミュニケーションを図り、適切な医療が受けられるように支援している。	かかりつけ医への通院介助は職員が行い、家族が通院介助する場合にも連絡を密にした的確な受診につなげている。週2回の訪問リハビリを楽しみに受けている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で気づいたことは連絡、相談し、適切な受診ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、スタッフが毎日見舞いへ行く。入居者様の様子を見に行ったり、洗濯物があれば持ち帰る。また、医師面談などもご家族の了解を得て一緒にお話を伺って、退院後の生活に備えるようしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医には通院時に重度化、終末期についての家族の意向をお話している。必要に応じて家族と主治医との面談や連絡を行なっている。	法人として医療連携の担当部署の組織強化を図っており、今年6月から当ホームも医療連携体制が適用されている。重度化した場合における看取り指針を利用者と家族に交付し、事前確認書を取り交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の方に指導して頂き救命救急法を受講し、対応出来るようにしている。また、ホームの勉強会においても、急変時の対応など確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。消防署や地域の方々の協力を得ながら行っている。	春には消防署の指導の下、秋には地元消防団や近隣の住民の参加を得て避難訓練を行っている。利用者の喫煙には職員が立ち会っている。備蓄もある。	災害発生時には職員の初期行動が重要なポイントであり、避難訓練を重ねることで得られる気づきや発見もあることから、自主訓練の形で回数を増やすことを検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人の誇りやプライバシーを大切にし、希望を聞きながら行っている。	プライバシーポリシーが掲示しており、一人ひとりの利用者に対して親しみをこめつつも人生の先輩として敬意を払って接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意向を聞き、確かめ自己決定が出来るように声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースでゆったりと自由に過ごして頂けるよう、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事、外出の際には、その人らしいおしゃれができるように声掛けをし支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の準備・片付けを一緒に行う。職員も一緒に食事を味わい、会話をしながら楽しいものになるように支援している。	専門家に依頼した献立表はあるが、差し入れの野菜などを臨機応変に取り入れている。利用者の好みをアンケートしたり、誕生日にはバイキングスタイルにするなど、目先を変えて食欲を亢進させ、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ゆっくりでも利用者様一人ひとりのペースで食事をして頂いている。水分を取ることが出来るように声かけを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様の口腔ケアに付き添い、状態に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に誘導を行い、排泄の失敗を出来るだけ減らしている。又、取り組んだことで、尿意を訴えてくるようになった利用者様もあり、気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。	居室にトイレが設置されており、タイミングを見てトイレに誘導しているので失敗は少ない。尿取りパッドとリハビリパンツの利用者はいるがおむつ使用者はおらず、入居してから症状が改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の豊富な副食を心がけ、おやつには、果物のヨーグルト和えを提供するなど工夫している。又、散歩や健康体操も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は本人の希望と体調の確認をしてから行っている。お一人づつゆっくりと入浴して頂いている。	入浴は利用者の希望に沿って支援している。入浴拒否の利用者には無理強いはないが、スタッフが交代したり誘い方を変えたりして、入浴しない日が連続することのないように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣、体調に合わせて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の服用している薬についての勉強会を開き、主作用と副作用、禁忌について全職員が学んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様のできる事を見つけ、役割やお手伝いをお願いすると共に、楽しみや気晴らしなど楽しく生活できるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様の体調、希望にあわせ、散歩や買い物に外出できる様支援している。	ホームの行事としての外出以外にも、個別の買い物や通院のついでに外食をしたり利用者の自宅に寄ったりするなど、地域からの入居者が殆どなので気軽に外出の機会をもつことができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預かり、事業所が管理しているが、家族同意のもと本人が所持している利用者様もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お誕生のお祝いの品が届いたり、手紙が届いた時など、本人が電話にてお話をしてもらっている。また、手紙の書ける利用者様には手紙が書けるような環境整え支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアは四季折々の風情を楽しめるように、春夏秋冬に合わせた飾りつけをしており、秋にはお祭りをテーマに利用者様が長年慣れ親しんだものを連想できるような趣向を凝らしている。	共用空間は広いが職員が目が十分に届くように設計されている。季節毎の飾りや利用者の作品、写真等が飾ってあり、カラオケの機材もあって歌唱を楽しむことができる。また、ほとんどの利用者は昼食後の午睡を除いてはリビングの好みの場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室はランプの好きな方の遊び場、新聞を読みたい方はソファに腰掛けて読むなど、自然と自分の居場所で過ごされている。環境を整え、ご自分がやりたいことができる支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人	入居時、長年使いなれたダンスや鏡台をお持ちいただいたり、ご自分の作品や家族との写真を飾っている。	利用者はそれぞれに馴染んだ家具、写真や仏壇などに囲まれており、自宅にいた時と同じ環境で居心地良く過ごせている。各室にトイレと洗面台があるためプライバシーが守られており、便利で安心できる作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入室内は利用者様の状態に応じた手すりの設置を柔軟に行っており、共有フロアも安全に配慮した環境を心がけている。		